

県サッカー選手権決勝

長崎総科大初V

MD長崎に2-0 天皇杯

悲願達成 4度目の正直

サッカーの第98回天皇杯全日本選手権県代表を決める第29回県選手権（県サッカー協会主催、長崎新聞社など共催）最終日は13日、諫早市のトランスコスモスタジアム長崎で決勝が行われ、長崎総合科学大がMD長崎に2-0で競り勝ち、初優勝を飾った。

長崎総科大は後半20分を中心にも何度も攻め込めた。MF洪が倒されて得点したが、長崎総科大はG.P.Kを自ら決めて先制。K濱田やDF陣が体を張る。県勢は長崎総科大が回戦（6月6日19時・長崎市総合運動公園かきと）1回戦（27日13時・鹿児島陸上競技場）でSRみ、右足で追加点を挙げ、大の洪（優秀選手にはM鹿児島ユナイテッドFC C広島 広島県代表）とた。MD長崎もFW上野 D長崎のMF安武が選ば（鹿児島県代表と対戦。松江シティFC（鳥根県



「監督に恩返しできた」

ハイライト

これまで計3回、準優勝に終わっていた長崎総合科学大が悲願の初優勝を飾った。メンバーの大半は付属高校の出身者。選手たちを高校時代はコーチ、大学入学後は監督として指導してきた就任7年目の八戸監督は「4度目の正直にすることができた。よくやってくれた」と教えた。この日、主将のMF成瀬を中心に立てたゲームプランは「前半を0-0で切り抜ければ、後半は運動量うちが有利になる。その思惑通り、前半はMD長崎の長身FW上野に攻めこまれる場面もあったが、DF葉真寺、高橋らが体を張って無失点を折り返した。理想の展開を迎えた後半は、攻撃陣が奮起した。20分、P.Kを獲得したMF洪が「すごい思い」でゴールを決めた。絶対的決定力」と自らのゴールを誇り、MF成瀬が個人技で追加点を挙げた。MD長崎はFW上野、黒田らがゴールに迫ったが、決定力を欠いた。

学生最後の年に最高の結果を出した4年生。成瀬は「八戸監督にやっと思返しできた」と感慨深げに語り、2週間後の大舞台に向けては「個性が強いチームだが、はまったときはすごい力が出る。全国でも自分たちのサッカーをしたい」と早くも闘志を燃やしていた。（藤井美和子）

決勝 MD長崎-長崎総合科学大 29分 長崎総合科学大のMF成瀬 20分

▽決勝 長崎総合科学大 2-0 MD長崎
▽得点者 洪、成瀬
【評】先制して試合を優位に進めた長崎総合科学大がMD長崎を振り切った。長崎総合科学大は前半、守る時間が続いたが、DF葉真寺、高橋らが体を張って対応し、G.K濱田も好セーブを連発。この堅守から徐々にペースをつかみ、パスもつながりだした。後半は途中から突破力のあるFW中島、MF日野を投入。カウンターの好機をつくり、20分にMF洪がドリブルで仕掛けて獲得したP.Kを自ら決めた。9分後にはMF成瀬が個人技で追加点を挙げた。MD長崎はFW上野、黒田らがゴールに迫ったが、決定力を欠いた。

第98回天皇杯全日本サッカー選手権大会



2回戦は6月6日、3回戦は7月11日、4回戦は8月22日で会場は未定。準々決勝以降の組み合わせは抽選